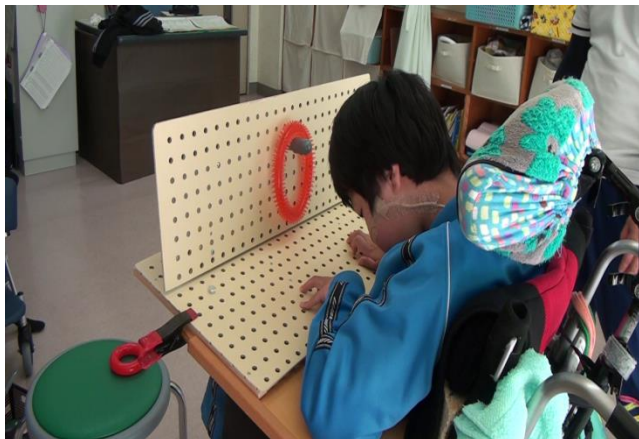


<図・写真>



<材料・製作方法等>

(材料)

有孔ボード、木片

(製作方法)

- ① 座位保持装置のテーブルサイズに合わせて有孔ボードをカットし、やすりをかける。
 - ② テーブルの縁に合わせて木片をつける。
 - ③ ボルトで固定しやすいようにクランプを改良し、ナットをつける。
- ※ 完成したテーブルに別紙のような教具を装着して使用する。

<ねらい>

- ・ 教具を一人で遂行できるようにすることで、より強い達成感、支援を求める要求行動を引き出すことができる。
- ・ 休み時間や病棟での生活で、一人で遊ぶことができる。

<指導方法・留意点等>

- ・ 板の穴に別紙のような教具を取り付けて使用する。
- ・ 児童生徒の状態を見ながら課題を調整し、提示する。
- ・ まずは、児童生徒と物との二項関係が成立するようにできる限り支援や言葉掛けをしないように努める。もし、支援を求めるような行動が見られたときにはそれに応じるようにする。
- ・ 強度がまだ十分でないため、使用中に壊れてしまうことがある。

<指導経過・成果・課題・展望等>

(指導経過)

- ・ 11 月末にテーブルを作成し、使用を開始する。
- ・ 12 月上旬、ひもを引く活動や、輪を手前に引く活動ができるようになる。
好きな活動（マジックテープを剥がす）を見つける。
- ・ 12 月中旬、切り替えが上手にできなかったときに教具を提示して落ち着く様子が見られる。
- ・ 一人での遊びにと、ラップや洗濯板などを固定したものを提示して一人で遊べる。

(成果)

- ・ 気持ちの切り替えを促すツールとしての可能性が感じられること。
- ・ 対象を見ようと頭を正中まで持ってくるが増え、また、上肢操作も上手になったこと。
- ・ 教師に訴える機会が増えてきていること。

(課題)

- ・ 「落とす」以外の終点の開発

(展望)

- ・ 「落とす」から「プットイン」、「手渡し」への終点の変化ができるようになってほしい。
→ 落とす方向を意識する教具、「どっちに落とそう鐘」を作成し、今後使用予定。
- ・ 座位保持装置上やベッド上で、一人で遊べる様な教具にしていきたい。